

2025年度入試 文学研究科コミュニケーション学専攻

解答又は解答例及び出題意図

課程	博士課程前期
実施期	Ⅱ期
科目名	社会心理学・コミュニケーション学
	解答又は解答例 及び出題意図
	[1] 次の設問のうちから1つを選択して、これまでの先行研究に言及しながら論述しなさい。 1 社会心理学の研究において、場面想定法を用いることの長所と短所、および、それらが長所あるいは短所であると考ええる理由について、論述しなさい。 〔解答例のポイント〕 場面想定法は、実験者が設定する場面を実験参加者に想像してもらい、反応あるいは回答してもらう実験手法である。 〔Ⅰ〕 長所としては、調べたいことがらについて、ある程度現実に近い結果が得られることを期待できる点や、様々な場面の比較が容易である点等があげられる。追試が容易であることを長所としてあげている研究もある。しかしながら、実際の場面で反応や回答をしてもらっているわけではないため、現実を的確に反映しているという保証はない。インパクトが弱いという指摘もある。これらの点は短所と言える。本問題ではこれらの長所・短所を念頭に置いて解答することがポイントとなる。 〔出題意図〕 社会心理学研究においては、現場での実験の実施が困難であることが少なくない。そのような場合に、場面想定法を活用することが一つの候補として考えられる。そのため、この方法の長所と短所を理解しておくことは重要であろうと考え、この点を問う出題をした。

2 コミュニケーション研究において、「文化」はどのように位置づけることができるか。

「日本文化」といったレベル、あるいは「オタク文化」といったレベルとさまざまに想定されうるが、あるものを主要トピックとして取り上げ、その内実とそれへのアプローチについてこれまでの先行研究を踏まえて論述しなさい。

〔解答例のポイント〕

社会科学における文化研究のひとつとして国民性論がある。日本においては、「日本人論」と呼ばれた。第二次世界大戦期に行われたルース・ベネディクトの『菊と刀』が有名である。戦争下ということでベネディクトは日本を訪問調査することなく、アメリカ在住の日系人のインタビューや出版物などの資料を活用した研究を行った。戦後日本人によるものとして、中根千枝の『タテ社会の人間関係』や土居健郎の『甘えの構造』などがある。一方、大規模な質問紙サーヴェイ法を活用した『日本人の国民性調査』といったものもあり、さまざまなアプローチが取られている。全体像を描き出そうとするものから、対人関係の微細なメカニズムを理解するものなど、ねらいにあわせたアプローチが採用されている。

〔出題意図〕

「文化」は社会科学における重要な鍵概念のひとつであり、いろいろなレベルで捉えることができる。「文化」に照準した研究群についての知識と理解を問うとともに、論述形式において論理展開の力も見るものである。

[2] 次の事項の中から 2 つを選択し、説明しなさい。その際、その事項の学術的背景や社会的背景についても説明すること。

1 測定の信頼性と妥当性

〔解答例〕

社会科学のデータの質の規準として測定の信頼性と妥当性がある。測定とは、ある対象にたいして数値を割り当てるものである。信頼性とは、その割り当てが測定のたびごとに変化することがなく安定していることをさす。妥当性は、測定結果である数値が測定したいものをどれだけ適切に表現しているかを言うものである。

〔出題意図〕

社会科学の基礎知識を問うものである。

2 公共広告

〔解答例〕

公共広告とは、公共の問題に関するメッセージを伝え、公共の福祉に寄与すること等を目的としている広告である。ただし、狭義では、AC ジャパンから出されている広告を指す。環境保護、公共マナーを守ること、いじめの防止等と呼ばれている。外国との共同キャンペーンを行うこともある。AC ジャパンに関しては、まず 1971 年に大阪で関西公共広告機構が設立され、後に全国的な組織になり、その後 AC ジャパンになったという経緯がある。

〔出題意図〕

社会科学の基礎知識を問うものである。

3 ヒューリスティック・システムティック・モデル

〔解答例〕

ヒューリスティック・システムティック・モデルは、説得的コミュニケーションによって態度変容が生じるまでの情報処理スタイルを説明するモデルである。このモデルでは、人間の情報処理に、簡便な処理であるヒューリスティック処理と、情報を入念に処理するシステムティック処理の二種類があることが想定されている。人間は基本的にヒューリスティック処理を行うと考えられて

〔2〕

いるが、このモデルは、処理の動機づけが高く、認知的処理能力・認知的容量も充分ある場合には、システムティック処理が行われることを示している。

〔出題意図〕

社会科学の基礎知識を問うものである。

4 コミュニケーションの2段の流れ

〔解答例〕

ポール・ラザースフェルドたちの『パーソナル・インフルエンス』において展開された知見である。それまで、人びとはマスメディアから直接影響を受けるとされていた。これを皮下注射モデルあるいは魔法の弾丸理論と呼ぶ。これにたいして、オピニオンリーダーと呼ばれるひとたちがメディアメッセージを受けて見解を形成する。それを知人や友人に伝える。マスメディアからは2段の流れでふつうのひとたちに伝わるというのがラザースフェルドたちの発見である。

〔出題意図〕

社会科学の基礎知識を問うものである。

5 フェイク・ニュース

〔解答例〕

事実とは異なる情報を伝えるものである。「虚偽報道」とも言われる。ある人物や実在の評判を傷つけたり、金銭的な報酬を得る目的で拡散されることが多い。フェイク・ニュースは古来から存在していたが、19世紀の日本の事例として新聞のものが有名である。近年はソーシャルメディアにおけるものが問題となることが多い。

〔出題意図〕

社会科学の基礎知識を問うものである。

6 選択的注意

〔解答例〕

多種多様な情報の中から、自分自身に関係のある情報を選択し、その情報に注意を向けることを選択的注意という。そうした情報に自ずと注意が向かうことはカクテルパーティー効果と呼ばれ、左右の耳から異なる音声を流す両耳分離聴を用いた実験によって明らかにされた。その後は、どの

段階で選択が生じているのかを調べる研究や、聴覚以外の刺激を用いた研究等が行われている。

〔出題意図〕

社会科学の基礎知識を問うものである。

7 ジェンダー・アイデンティティ

〔解答例〕

ひとをどのようなカテゴリーに属するものとするかをアイデンティティという。本人の意識する内的なものと他者からまなざされるものを区別できる。そのうちジェンダーにかかわるものがジェンダー・アイデンティティである。ジェンダーは、生物的な性（セックス）とは区別される、社会的なカテゴリーである。男性、女性、そしてLGBTQというカテゴリーが想定されている。ひとのありようが性とジェンダーによって規定される部分が大きいため、ジェンダー・アイデンティティは社会科学にとって重要な探求要因である。

〔出題意図〕

社会科学の基礎知識を問うものである。

8 トリプル・メディア

〔解答例〕

コミュニケーションに用いられるメディアの分類であり、マーケティングの分野において、インターネットの広まりを背景として掲げられた。ペイド・メディア、オウンド・メディア、アーンド・メディアの3種類から成る。ペイド・メディアとは、企業等が料金を支払うことで利用できるメディアである。従来の広告のメディアは主としてこれに属する。オウンド・メディアとは、企業のウェブサイトなど、企業等が自らコントロールできるメディアである。アーンド・メディアとは、消費者のブログやニュース・サイト等、企業等がコントロールできないメディアである。

〔出題意図〕

社会科学の基礎知識を問うものである。

9 ディブリーフィング

〔解答例〕

社会心理学等の調査や実験においては、通常、開始前に目的・主旨等を説明するが、詳細に説明してしまうと結果を方向づけてしまう可能性が生じる場合がある。そのような場合には、開始前は

大まかな説明をするにとどめ、終了してから本来の目的や主旨を説明する。この手続きがデブリーフィングである。得られたデータを分析する前に、回答者や実験参加者から了解を得る必要がある。

〔出題意図〕

社会科学の基礎知識を問うものである。

10 状況の定義

〔解答例〕

W.I. トマスたちが定式化した「もし、人がある状況をリアル（現実）であると定義するなら、それは結果においてリアルである。」というものである。後のシンボリック相互作用論の理論的基盤のひとつとなった。「トマスの公理」と呼ばれることもある。

〔出題意図〕

社会科学の基礎知識を問うものである。